

令和4年度第6回矢巾町立学校通学区域審議会（書面開催）報告書

令和4年7月28日（木）開催予定の令和4年度第6回矢巾町立学校通学区域審議会について、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し書面開催とした。

あらかじめ配布した矢巾町立小・中学校の適正規模、適正配置（答申案）への意見等を7月28日～8月22日の期間で委員全員から次のとおりいただいたので報告する。

| 項目                       | 意見等   |
|--------------------------|---|
| 1 望ましい学校規模（学級数・学級人数）について | <ul style="list-style-type: none"> <li>●最終的には、徳田、不動については、一部煙山で小中一貫校になるかもしれない。</li> <li>●学校規模を検討するうえで、担当教諭の負担が今まで以上に軽減されていくべきと考えます。</li> </ul>   |
| 2 望ましい通学距離と通学時間について      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●体を鍛えるには、4 km以上もありえるかもしれない。</li> <li>●昨今の気象状況、交通事情を踏まえ、距離・時間の検討が必要と思われます。スクールバス運行も限りある予算の中で本来必要な地域へ手厚くお願いできればと思います。</li> </ul>   |
| 3 適正化を進める上で考慮すべきことについて   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●（3）結論④多様な教育方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>わたくしは、答申案あるように「将来的には集中一貫もしくは併設型一貫校の設置検討すべであると思えます。そのうえで一貫校設置検討以前の、学校規模や配置を検討するこの機会にこそ、下記のような社会的課題を僭越ながら「不登校（登校渋り）や長期・欠席で支援実践する者からの意見を述べさせていただきます。</li> <li>生徒たち自身が求める学習スタイルが、学校の従来の教育スタイルとは想像以上に大きな壁があると感じています。とくに不登校傾向になりがちな生徒たちほど多様です。今後もさらに不登校児童の報告推移から増えると思われます。矢巾町が町一丸となり義務教育の9年間全体を見通した小学校と中学校の連携・繋ぐに視点をおいて、教育領域での「町おこし」。小学校と中学校の横繋がりや縦繋がりでの統合した教育目指す。</li> <li>例えば、昨今になって一般企業が他業種との連携や繋がりを進めることを重視して事業展開している企業が目立ってきました。教育領域でも小学校4校と中学校2校それぞれの「横繋がり」、小学から中学の9年間の「縦繋がり」の展開を図り統合していくことで、これまで以上に児童の成長や教育効果を高める可能性を生む一つの方策になると考えます。</li> <li>効果としては、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時的には児童生徒が増加したり、急激な減少に転じる場合になっても、適正規模や・配置の検討や調整が可能になるのではないかと。</li> <li>・特別教室や屋内運動場など施設が足りない場合、また学校行事の際に全校児童生徒が少なく行事の目的が果たせない等のケースで、横型連携で見合う方法で課題に向き合えるのではないかと。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> |

|              |  |
|--------------|--|
|              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級や高等学校との連携・接続等についても情報交換・情報収集が速やかに行われるのではないかな。</li> <li>●特にも近年の人口や子供数で急対策すべきではありません。地域インフラとしての学校の統廃合や新設を急ぐべきではないと思う次第です。この対処はより大きな視点で捉え、未来に大きな負の遺産を残してはならないと存じます。よって既存学校の空き教室を有効に、永く使用する方策を構築すべきと考えます。</li> <li>●適正化といいますが、個々の体力に合わすのもいいかもしれません。根性づくりも必要。</li> <li>●（３）結論②通学の安全確保<br/>通学路の整備、スクールガードさんのご協力、送迎者駐停車地、スクールバス運営等</li> <li>●（３）結論①保護者や地域の理解と協力<br/>スクールガードが年々減ってきているなかで『「増員」の検討』を記述して良いのか気になります。65歳定年から70歳定年制が検討される昨今、今まで通り地域のセカンドキャリアの方々に頼ることは難しく、保護者も勤務時間中のため困難かと思われます。スクールガード『「確保」の検討』のほうが良いと思いました。</li> <li>●（３）結論①通学の安全確保<br/>街路灯の設置も是非お願いしたい。田中・下花立地区～徳田小学校間の通学路はとても暗い</li> <li>●地域の高齢化率の高まりなどもあり、今以上の地域への負担増は考えにくいと思われますが、連携は引き続き子ども達の安全安心の確保に向け、更なる仕組み作りが必要と思われます。</li> </ul> |
| <p>4 その他</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●永く矢巾町の歴史を見てきて学校に問題に感じることを述べます。昭和30年の合併以前からそれぞれ徳田、煙山、不動の小中学校が続いてきていました。当時の矢巾町の主要産業は農業でした。現代の当町の主要産業(販売額)は商業流通業が86%、農業0.1%と大きく変貌してしまいました。今、学区再編等の問題となっている人口と子供数の偏りはまさに主要産業の変化に伴う、居住者数の偏りと重なって見えます。この問題はイタチごっこの様に見えますが今後、真剣に産業の適正分布を考えていく必要があります。徳田小学校もそうですが、特にも不動小学校の地域は農業しかないといっても過言ではありません。その後継者も地域離れをしている現状です。主要産業の空白地での産業育成と適正配置は、その地域はもとより、全町民にとって重要な繁栄戦略です。並行構築を望みます。</li> <li>●あと1回残っているのですが、7回にわたる審議会で委員として、矢巾町立小中学校の適正規模・適正配置について、様々な資料や観点から多くのことを学ぶ機会となりました。ありがとうございました。私事ですが、現在、地域の公民館長やスクールガード、学校運営協議会委員等を務めています。この答申が学校・児童生徒の教育環境整備の充実により、今後の児童生徒の確かな学力と健全育成に資することを強く願っております。</li> <li>●質問</li> </ul>   |

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・参考までに保護者による学校選択権について、認められている事例、現状で学区外が認められている事例を教えてください。今後はどうなるのでしょうか？</li><li>・検討課題の「田中地区と下花立地区の今後の行政区はどうなるのか再編になるのか、子ども会はどうなるのか」についてですが、今後の見通しについて現時点で考えていることがあれば教えてください。</li><li>・「3 適正化を図る上で考慮すべきことについて」の以下の5点とは？4つは示されているが・・・。</li><li>●2025年問題（4人に1人が75歳以上）を踏まえ、今後、元気な高齢者の積極的な社会参加、社会資源としての（スクールガードなどの地域の見守り役）活用方法など、行政が窓口となり仕組み作りも求められてくると思われます。ただし、完全なるボランティアではなく、僅かでも有償のボランティアが活動として好ましいと思われます。</li></ul> |
|--|---|